

スペインの重要性

2022年10月
在スペイン日本国大使館

皇室・王室間の友好関係

- ◆日本皇室とスペイン王室の間で脈々と続く友好関係。
- ◆天皇陛下は計6回スペインをご訪問、国王陛下は計5回日本をご訪問。



国王同妃両陛下の即位の礼ご出席

EU第4位の大国

- ◆人口・経済共にドイツ、フランス、イタリアに次ぐEU内第4位。外客数世界第2位。
- ◆1986年のEC加盟以来、一貫して欧州統合のプロモーターの代表的存在。
- ◆欧州復興基金の補助金受領額(2021年～2023年:727億ユーロ)はイタリアに次ぐ2位。同基金の活用により、デジタル、グリーン産業の強化を目指す。



サンチェス首相

産業・技術における高い国際的競争力

- ◆再エネ:発電構成における再エネ比率は約44%。再エネ設備容量は欧州第2位。
- ◆インフラ:世界有数の企業ACSグループ(国際契約額世界第1位)。
- ◆高速鉄道:路線距離で、中国に次ぐ世界第2位。
- ◆自動車:生産台数は欧州第2位(第1位はドイツ)。



高速鉄道AVE

歴史的紐帯に基づく中南米についての深い知見

- ◆通信、金融、エネルギー、メディアを中心にスペイン企業の影響力大。
- ◆中南米のほぼ全ての首都に直行便。日本→中南米渡航に活用可。
- ◆スペイン語(話者数5.85億人は中国語、英語に次ぎ世界第3位)。



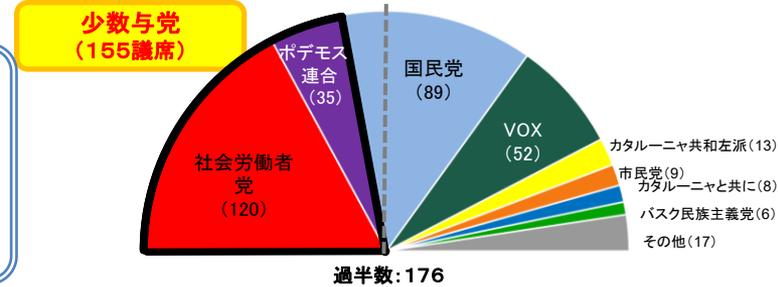
日本にとっての戦略的意義

- ◆「インド太平洋」への関心・認識の高まり←欧州での対中警戒論、中南米での中国との競争等を背景に、日本の「インド太平洋戦略」への理解が進展。日本との安全保障・防衛政策分野での協力に関心。
- ◆再エネ、インフラ等分野での日スペイン企業との協力←エネルギー安全保障やインド太平洋戦略の実現の観点から、アジア市場での協力を含め日スペイン企業の協力が高いポテンシャルあり。
- ◆更なる対日理解促進の好機←日本語学習者は増加し欧州第4位(仏、英、独に次ぎ約8500人(2018年))、日本人訪問者数は欧州で第2位(2019年)。市民レベルでの交流を飛躍的に伸ばすチャンス。



スペイン現政権の構成

- ◆ 2020年1月7日、**民主化(1977年)後初の連立政権**(社会労働者党とポデモス連合)が発足。
- ◆ 首相及び閣僚22名のうち18名が社会労働者党系、5名がポデモス連合系。**3名の副首相職(全員女性)**を設置。
- ◆ 男女平等に配慮(閣僚22名のうち**14名が女性**)。



首相

サンチェス書記長



中道左派

社会的権利・2030アジェンダ大臣

ベララ党首



急進左派

- 社会民主主義的傾向という点は共有するものの、ポデモス連合がより急進的な政策(ウクライナへの武器供与に後ろ向き、大企業に対する重課税)を目指すことで、政策の違いが顕在化する場面がある。
- 両党では過半数に及ばず、地域主義政党の協力が必要な局面も。特に、独立擁護派であるカタルーニャ共和左派等とどのように向き合っていくかも課題。

スペイン内政の特徴

特徴1: 中道左派／中道右派の二大政党

- **社会労働党(PSOE、中道左派、現政権与党)**と**国民党(PP、中道右派)**の2大政党が、70年代の民主化後一貫してスペイン政治の中心を担い、相対的に安定した政治環境。
- 二大政党間で、**外交政策には大きな違いはない**。一方、財政政策、エネルギー政策及び独立派地方政党との関係に相応の違いあり、支持層もこれら政策への支持・不支持により分かれる。

特徴2: 急進的な少数左派／少数右派政党の存在

- 近年はスペインも多党化傾向。PSOEもPPも、現時点では**単独で過半数を占めることは困難**。PSOE/PPのいずれが第一党となったとしても、それぞれ**少数の急進左派(ポデモス連合)**または**極右(VOX)**との**連立**が必要となる可能性が高い。
- その場合、一部の政策においてこれら急進的少数政党の意向(ポデモス連合(急進左派):経済・社会政策、VOX(極右):移民政策の強化等)を反映せざるを得ないとみられる。

スペイン内政の特徴(つづき)

特徴3: 地域主義・地方分権・独立運動

- 比較的自治権の強い17の自治州で構成。特に、独自の歴史、言語、民族、自治制度、地域政党を持ち、かつ、経済の先進地域である**カタルーニャ州**と**バスク州**との関係は、いずれの政権にとっても大きな課題。
- **カタルーニャ州**では、2012年11月に、独立を標榜する急進的地域主義政党が州議会選挙で勝利。その後独立の機運が高まり、2017年10月、独立派の州首相が主導し独立を問う「州民投票」を強行。同州では引き続き独立派が政権を担うが、州民投票後、独立派内部の主導権争い、州民投票の投票率が43%と予想よりも低かったこと、国際的サポートも得られなかったことから、**現実路線に転換**。現在州政府は、中央政府と、カタルーニャ州による自決権等について**対話し**、**長期的**に州民投票の実施を目指すとの方針。
- **バスク州**では、武力闘争路線で独立を求めていたテロ組織ETAが、2018年5月3日に解散宣言。現在は**穏健な中道地域主義政党「バスク民族主義党(PNV)」を中心に安定した経済政策**を実施。いずれの政権にとっても、バスクの地域主義政党と良好な関係を築くことが政権運営の鍵。

2023年国政選挙に向けた展望

選挙スケジュール

- **2023年5月28日**に**全国統一地方選挙**が実施される(前倒し選挙を実施したアンダルシア州、カタルーニャ州、ガリシア州、バスク州及びカスティーリャ・イ・レオン州を除く)。
- **2023年11月10日**に**下院議会が任期満了**。通常、任期満了から30~60日の間に国政選挙が実施される。
- 2022年下半年にはEU議長国となること、10月31日に議会におけるレオノール王女の成人の宣誓が予定されており、同宣誓に影響を与えないようにする必要があること等から、**国政選挙の前倒しの可能性は低い**と見られている。



フェイホーPP党首

世論調査及び展望

- 2022年4月にフェイホー新党首が就任して以降、**PPの支持率上昇**。現時点の**世論調査では第1党**。ただし、**PSOEと支持率は拮抗**しており、いずれにせよ**単独過半数には及んでいない**。
- 現時点では、PPとVOXを合わせても過半数(176議席)の獲得は確実ではないとされる。過半数獲得のため、PPは、VOXとの連携に加え、分離主義的でない地域主義政党との協力も必要になるとされる。
- 左派政党(PSOE、ポデモス連合等)の合計議席も過半数には及ばないと見られ、地域主義政党との協力が鍵。

基本的姿勢

①EU重視姿勢の堅持、②多国間主義の推進、③ラ米、地中海、アフリカ諸国との関係優先、④国際協力へのコミットメントをスペイン外交の基本原則とする。

個別地域での取組: その1 欧州、中南米、マグレブ・中東

EU重視、欧州統合強化重視の姿勢を維持。欧州でも各国の結節点となる国(pais nodal)」を標榜。

- 欧州統合強化(経済・通貨統合、銀行同盟)を重視。欧州共同での移民・難民問題への対応及びエネルギー政策の改革を主張。防衛面での結束強化。
- 独仏との協調を重視しつつ、他の欧州諸国との対話を積極的に進める(南方諸国とは移民問題等)。
- ボレル元外相が、EU外務・安全保障政策上級代表を務め、2023年下半期は、スペインが5度目のEU議長国。
- EUと中南米・マグレブをつなぐ架け橋としての立場を活かし、EUの対中南米外交及び対アフリカ外交に積極的に関与。
- ウクライナ情勢では、EUによる制裁に参加、NATOの枠組みでの武器供与、人道支援・退避オペレーション等を実施。

ラ米・カリブ: 歴史的・文化的繋がりが強く重視。EU議長国として関係強化

- イベロアメリカ首脳会合(次回2023年3月)、EU・CELAC関係強化、EUとメルコスールとのFTAを通じたラ米地域の統合推進の主導を目指す。
- ベネズエラ危機の解決に向けたイニシアティブを継続。



サンチェス首相と
フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長との会談

マグレブ・中東: EUは東方のみならず南方(北アフリカ)に一層目を向けるべきとのメッセージを発信

- マグレブ諸国と地理・歴史的繋がりが強く、中でもモロッコを重視。
- 増大するアフリカからの不法移民への対応が大きな課題。イスラム過激派によるテロ対策を重視。
- 西サハラでは、モロッコによる自治権を現実的と評価し、アルジェリアの反発を招いている。パレスチナ情勢の政治的解決のための国連の取組を支援。

個別地域での取組: その2 米国、サブサハラ、アジア太平洋

米国: 欧州及び二国間レベルでの関係強化

- 1953年、**西米軍事協定**を締結、米国はスペインにとって**伝統的に重要な同盟国**。ロタ海軍基地及びモロン空軍基地を米軍と共用(米軍が駐留)。米は駆逐艦及び兵員の配備増を希望。
- 2021年8月のアフガニスタン退避オペレーションで、米国のために働いていたアフガニスタン人を、ロタ海軍基地及びモロン空軍基地に一時的に受け入れ。



ロタ基地

サブサハラ: 今後の経済成長、人口増加を見越し、関係強化を模索

- 2019年3月に「III Plan África」を策定し、「Foco África 2023」として優先事項を具体化。包括的かつ省庁横断的に取り組む。
- 政治・経済力に着目し、最優先国に南ア、エチオピア、ナイジェリアを指定。

アジア太平洋: スペイン外交の新たな重点地域

- 日本を長い交流の歴史と基本的価値を共有する国として重視。皇室・王室間の関係緊密。2018年の日西外交関係樹立50周年に安倍総理が公式訪問、二国間関係を「**戦略的パートナーシップ**」に。2019年の即位の礼にフェリペ6世国王同妃両陛下がご出席。
- 2022年6月のNATO首脳会議出席のため岸田総理が訪西。その際の日西首脳会談において、サンチェス首相は、**日本との「戦略的パートナーシップ」の活性化への期待、インド太平洋におけるEUの関与の重要性**を強調。スペインが策定に貢献した「**インド太平洋における協力のためのEU戦略**」が採択されたことに対する満足の意を示した。
- 2022年3月18日、**アルバレス外相**は、講演において**自由で開かれたインド太平洋戦略(FOIP)に対する支持を初めて明示的に表明**。同地域における重要なパートナーとして日本に言及。
- 中国とは、他の欧州主要国と同様、徐々に対中警戒感を高めつつも、経済関係の強化も重視。2018年に習近平国家主席がスペインを国賓訪問。2021年6月、二国間**戦略的パートナーシップ**に係る共同宣言を発表。2023年に外交関係樹立50周年を迎える。



アルバレス外務・EU・協力大臣

「日本は、**インド太平洋地域の中心性を最も積極的に推進している国**の一つである。EUの戦略コンパスは、ルールに基づく国際秩序を基盤とする**日本の「自由で開かれたインド太平洋」ビジョンと一致する**。」(2022年6月アジアに関する講演)

経済規模・概況

- 人口約**4,700万人**(EUの約9.1%)、GDP約**1兆1,900億ユーロ**(1兆3,930ドル)、一人当たり**29,565ドル**。
- 人口、経済規模ともに独、英、仏、伊に次ぐ**欧州第5位**。G20メンバーのアルゼンチン、トルコ、豪州等よりも経済規模大。
- この25年間で伊と2倍あったGDPの差が**1.4倍まで縮まり**、一人当たりGDPでも1.4倍あった差が**1.1倍まで縮小**。
- 失業率は14.1%であり、若者に限れば32.6%と高い。また、少子化は深刻で**特殊出生率は1.23**(日本1.36、韓国0.91)。
(データはいずれも2019年のもの)

主要産業等

製造業

- バスク州などの北部の重工業地域を元々有し、欧州において比較的安い労働力を供給。**自動車製造業などの工場が多く立地**(自動車生産台数ドイツに次**欧州第2位**: GDPの**10%**)。



VW傘下のスペイン
自動車メーカーSEAT

農業・水産業

- 欧州有数の農業国、食糧自給率はカロリーベースで82%、特に**オリーブ世界第一位**、**ワイン世界第三位**、**漁獲量欧州第一位**。対日輸出主要品目は、豚肉(生ハム含む)、オリーブオイル、かつお・マグロ類等



観光業

- 地中海沿岸のリゾート地及びグラナダ・バルセロナなど世界有数の観光地があり、外国人観光客の受入数が**世界第2位**(GDPの**12%**)と観光大国の地位(国連世界観光機関(UNWTO)の本部あり)。

今後の重点産業と欧州復興基金

- ポストコロナに向けて、スペイン政府は、将来の成長を支える分野として**デジタル化とグリーン投資**を重視。**欧州復興基金**(スペインはイタリアに次ぐ**第2位の受益国**、返済不要な補助金を約**727億ユーロ**受領の見込み(2022年10月までに約310億ユーロを受領。**EU内最速ペース**))の37%をグリーン投資に、33%をデジタル化に充てる予定。

ウクライナ情勢の影響

- ロシアからの天然ガス等のエネルギー依存度が比較的**低く**(21年の依存度、天然ガス:12%、原油:12%、石炭:30%)、**欧州で最大のLNG基地**を有し(国内7箇所のうち6箇所稼働)、**欧州のLNG貯蔵能力の30%**を占める。
- コロナ禍が下火になり外国人観光客が増加したことにより観光セクターが好調、**足元では底堅い成長**を維持。
- ただし、GDPがコロナ禍前の水準を回復するのは**2024年初頭**となる見込み。

高い国際競争力

- インフラ分野や鉄道分野のスペイン企業は、小さな国内市場で技術を培い、**海外の将来有望な市場に展開**。
- 国内よりも海外での売上が大きい分野**も出ており、スペインの経済活動の国際化の下地に。
- 日本企業と競合するようにも見えるが、実際には、**スペイン以外の市場でスペイン企業と日本企業が共同して案件獲得する事案も**。

再生可能エネルギー／水素

- 発電構成における再エネ比率は約**44%**。再エネ発電容量は**世界第9位**。安定した北西風による風力発電、欧州内で比較的低緯度かつ有数の年間晴天日数による太陽光発電のポテンシャルが高い。
- 政府は、**再エネを利用したグリーン水素関連産業**を将来の成長分野として推進。スペインのエネルギー会社(Iberdrola、Enagas、Acciona等)は、統合運営技術に優れ、**欧州、北米・中南米においても再エネ事業進出**。

インフラ

- 世界有数のゼネコンACSグループ(**国際契約額世界第一位**)を持つなど、インフラ建設分野での実績大。**南米、北米地域に強み**あり。



鉄道

- 車両製造で海外輸出の実績あり。スペインの高速鉄道は仏TGVの技術導入だが、路線距離では、中国に次ぐ**世界第2位**(欧州では第1位)。

情報通信

- テレフォニカは**世界有数の通信事業者**。もともと**中南米に強み**があるが、近年は**欧州市場にも展開**。

- **日本皇室とスペイン王室**の伝統的な友好関係は両国関係の強固な基盤。
- 日本とスペインは**基本的価値を共有するパートナー**。国際社会の諸課題にともに取り組む(2018年の首脳会談(安倍総理(当時)・サンチェス首相)で両国関係を「**戦略的パートナーシップ**」に)
- 2022年、マドリッドでのNATO首脳会議に際する首脳会談(岸田総理・サンチェス首相)で、「**自由で開かれたインド太平洋**」の**実現を含め協力強化で一致**。そのため、**安全保障・防衛政策、経済分野(再生可能エネルギー／水素、第三国市場での協力等)**等の更なる協力で一致。

1. 安全保障・防衛政策分野での協力

- スペイン海・空軍と海上自衛隊の**共同訓練**(アデン湾における海賊対処、グアム周辺海域、ジブラルタル沖)
- 初の**防衛駐在官**の配置(2022年3月)
- 防衛当局間協議(次回は日本開催予定)
- 防衛装備品分野での協力の可能性を模索

2. 経済分野での協力

- **再生可能エネルギー／水素**:特に、グリーン水素製造が期待されるスペインと、輸送技術や要素技術に強みを持つ日本企業との間での協力が大きな可能性あり。→中長期的に**エネルギー安全保障に貢献**
- **第三国市場における協力**:中南米のみならず、アジア太平洋等における協働も有望(既に**アジアでも実績あり**)。→日スペイン企業間協力が、「**自由で開かれたインド太平洋**」の**実現に貢献**
- **貿易**:スペインから日本への輸出額はリーマンショック後の2009年以降増加傾向で推移。特に、**日EU EPA発効後**、豚肉(2019年対前年比18%増)、ワイン(同22%増)、オリーブオイル(同19%増)及び自動車(同76%増)で**輸出額増加**。

3. 人的交流分野での協力

- **観光**:近年は観光客の往来も増加傾向(年間訪問者数 日→スペイン:約68万人、スペイン→日:約13万人(2019年))
→日本の水際対策も緩和され、両国間の直行便の復活を含め双方向の人流の増加を期待
- **文化交流**:市民レベルで日本に高い関心(歌舞伎、文楽等の公演は常に満員。アニメ・マンガ等十万人超のイベント多数。豊富な日本酒揃えの店や懐石、B級グルメも出現。日本食関連製品の輸出増(直近約10年で、日本酒は約5.2倍、日本茶は約8.6倍)。)
→さらなる日本文化普及、日本語学習者増を目指し、スペイン各地の友好団体、大学等の取り組みを後押し(2023年は「**日バスク年**」(バスク州)、サラマンカ大学「**日本年**」)

日本とスペインの企業間連携の促進(ハイレベルでのやりとり)

◆ 岸田総理とサンチェス首相との会談

@NATO首脳会合(スペイン、2022年6月29日)

- 岸田総理から、NATO首脳会合議長としてのサンチェス首相の尽力を高く評価する、戦略的パートナーであるスペインと、「自由で開かれたインド太平洋」の実現を含め、協力を一層強化していきたい旨述べました。これに対し、サンチェス首相から、日本との関係を重視しており、グリーン・エネルギー、デジタル、サイバーを含む様々な分野で協力を促進していきたいとの発言がありました。
- 両首脳は、水素、風力発電等再生可能エネルギー、デジタル等の分野での日本とスペインの企業間協力、また、中南米等の第三国市場における企業間連携が進むことを期待するとともに、日スペイン・シンポジウムを始めとする枠組みを通じて、両国間の対話・協力を強化することで一致しました。

◆ 林芳正外務大臣とホセ・マヌエル・アルバレス外務・EU・協力大臣との会談

@G20外相会合(インドネシア、2022年7月8日)

- 林大臣から、初めて対面で会談ができ喜ばしい、先月のNATO首脳会合開催国としての尽力を高く評価する、戦略的パートナーであるスペインと、ロシアによるウクライナ侵略への対応や「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて、協力を一層強化していきたい旨述べました。これに対し、アルバレス大臣から、安倍元総理大臣の御逝去に心からお悔やみ申し上げる、日本との関係を重視しており、様々な分野で日スペイン協力を更に強化していきたい旨述べました。
- 両大臣は、先月の日スペイン首脳会談も踏まえ、日本とスペインの企業間協力、また、中南米等の第三国市場における企業間連携や、日スペイン・シンポジウムを始めとする枠組みを通じた両国間の対話・協力を強化することを確認しました。